

第4章 職員からの意見

主な意見（自由記述）

1 避難所

- ・全てが臨機応変での対応であったため、現場で懸案事項が出る度に本部に問合せをしてしまうような状況だった。災害に「事前」は無いと思うが、避難者への統一的な対応や、本部の電話回線の混雑回避のため、可能な範囲で、避難所におけるある程度の方針やマニュアルがあれば良いと思った。
- ・避難所運営者が各避難所の収容状況などを把握できると良かった。
- ・「学校」が避難所となったが、避難所の運営については「学校職員」の協力が大変重要であるということを感じた。
- ・避難所にペットを連れてきた家族の対応がスムーズにできず、戸惑ってしまった。
- ・予想以上の方が避難されてきたため、職員は受け入れするのに精一杯で、高齢者や乳幼児連れの家族のための配慮ができなかった。限られた職員での対応のため、地域での世話役などを含めた避難所運営の訓練が必要と思う。実際に看護師の方や区長さんが「何かお手伝いします。できることはありますか。」などと申し入れがあったが、具体的なお願いをすることができなかった。役割分担などを決めると良いと思った。

2 職員体制

- ・各部署の出務者がどこにいるのか全庁的な見える化ができればよいと思った。現場を抱えていない部署などで待機者が何人いるのかがわかれば、人員の割り振りがしやすいと思う。
- ・参集について、災害対応の長期化（翌日の業務等）を見据えて人員の配置、班編成を行う必要があると感じた。

3 物品

- ・土のうは、早めに配っていたが、必要とする個数の把握をもう少し早めにするべきと感じた。
- ・着ていた雨具が破損しており、雨が浸透してしまい着衣までびしょびしょに濡れてしまった。日頃から雨具等の状態確認も重要と痛感した。

4 庁舎管理

- ・燃料を保管するためのタンクを買いそろえておくべきであった。
- ・台風当日は停電にはならなかったが、停電への備えに不安があった。非常電源装置が正常に起動するか、燃料の確保は現状で十分かどうか、今後更に備えを強化していきたい。

5 防災意識向上

- ・防災に関して、自身も普段からアンテナを高く張り、情報収集をする必要があると感じた。
- ・課の担当というよりは、足りないところの手伝いに行ったのがほとんどで、どんなものにも対応できるように知識等を身につけておきたいと感じた。
- ・今回、入職して初めての災害対応でした。とにかく指示が出た場所でやるべきことを必死でやっていたので、色々考える余裕がなかった。今回の災害対応で大体のやることは把握できたので、次回は自ら進んで考え行動できるようにしたい。
- ・災害対応時のマニュアルが頭に入っていなかったもので、指示待ちで動くことになってしまい反省。
- ・情報の共有と、対応ができなかったと反省した。どういったことが想定され、どのような対応（物品の所在、行動）が必要になるかを日頃から学習しておくことが必要だと感じた。

6 その他

- ・記録写真が撮影できなかった。
- ・今回の災害は1晩で済んだが、長期化した場合の対応は想像以上に大変なことになると痛感した。そういった場合、県や国からの後方支援が入ると思う。そのシュミレーションができたり経験があると良いと思う。そのためにも、もし今後本町以外で災害があり、専門職の支援の協力依頼があったら、ぜひ派遣させて頂きたい。(例：保健師やこころのケアチームとか) 必ず役に立つと思う。
- ・台風一過の13日昼の時点で浸水家屋の状況がつかめず、多量の廃棄物の発生を把握できず、初動が遅くなってしまった。
- ・緊急速報メール等の多言語化が必要と感じた。



令和元年 東日本台風

(台風第19号)

検証報告書

お問い合わせ先

大泉町総務部安全安心課

〒370-0595

群馬県邑楽郡大泉町日の出55番1号

TEL : 0276-63-3111

FAX : 0276-63-3921